



風や波の強さを覚えよう

気象庁風力階級表(ビューフォート風力階級表)

風力階級	説明	
	海上	陸上
0	鏡のような海面	静穏(せいおん)。煙(けむり)はまっすぐにのぼる。
1	うろこのようなさざなみができるが、波がしらに泡(あわ)はない。	風向は、煙がなびくのでわかるが風見には感じない。
2	小波の小さいもので、まだ短いがはっきりしてくる。波がしらはなめらかに見え、砕(くだ)けていない。	顔に風を感じる。木の葉が動く。風見も動きだす。
3	小波の大きいもの。波がしらが砕けはじめる。泡はガラスのように見える。ところどころ白波が現われることがある。	木の葉や細い小枝(こえだ)がたえず動く。軽い旗が開く。
4	波の小さいもので、長くなる。白波がかなり多くなる。	砂ぼこりが立ち、紙片(しへん)が舞(ま)い上がる。小枝が動く。
5	波の中ぐらいのもので、いっそうはっきりして長くなる。白波がたくさん現われる。(しぶきを生ずることもある。)	葉のあるかん木がゆれはじめる。池や沼(ぬま)の水面に波がしらが立つ。
6	波の大きいものができはじめる。いたるところで白く泡だった波がしらの範囲がいっそう広くなる。(しぶきを生ずることが多い。)	大枝が動く。電線がなる。かさは、さしにくい。
7	波はますます大きくなり、波がしらが砕けてできた白い泡は、すじをひいて風下に吹き流されはじめる。	樹木(じゅもく)全体がゆれる。風に向かっては歩きにくい。
8	大波のやや小さいもので長さが長くなる。波がしらはしは砕けて水けむりとなりはじめる。泡は明りょうなすじをひいて風下にふき流される。	小枝が折れる。風に向かっては歩けない。
9	大波。泡は濃いすじをひいて風下にふき流される。波がしらはのめり、くずれ落ち、逆巻(さかま)きはじめる。しぶきのため視程(してい)がそこなわれることもある。	人家にわずかの損害(そんがい)がおこる。(煙突(えんとつ)が倒(たお)れ、かわらがはがれる。)
10	波がしらが長くのしかかるような非常(ひじょう)に高い大波。大きなかたまりとなった泡は濃(こ)い白色のすじをひいて風下にふき流される。海面は全体として白く見える。波のくずれかたは、はげしく衝撃的(しょうげきてき)になる。視程はそこなわれる。	陸地の内部ではめずらしい。樹木が根こそぎになる。人家に大損害がおこる。
11	山のように高い大波(中小船舶(せんぱく)は、一時波のかげにみえなくなることもある)。海面は風下にふき流された長い白色の泡のかたまりで完全におおわれる。いたるところで波がしらはしがふき飛ばされて水けむりとなる。視程はそこなわれる。	めったにおこらない。広い範囲(はんい)の破壊(はかい)をともなう。
12	大気は泡としぶきが充満(じゅうまん)する。海面は、ふき飛ばしぶきのために完全に白くなる。視程は著(いちじ)しくそこなわれる。	

気象庁風浪(ふうろう)階級表

風浪階級	風浪階級	波の高さ(単位 m)
0	鏡のようになめらかである。	0
1	さざ波がある。	0をこえ 1/10まで
2	なめらか、小波がある。	1/10をこえ 1/2まで
3	やや波がある。	1/2をこえ 1 1/4まで
4	かなり波がある。	1 1/4をこえ 2 1/2まで
5	波がやや高い。	2 1/2をこえ 4まで
6	波がかなり高い。	4をこえ 6まで
7	相当荒(あ)れている。	6をこえ 9まで
8	非常に荒れている。	9をこえ 14まで
9	異常(いじょう)な状態(じょうたい)。	14をこえる

気象庁うねり階級表

うねり階級	うねりの階級の説明	
0	うねりがない。	
1	短くまたは中位の	弱いうねり(波高2m未満)
2	長く	
3	短く	
4	中位の	やや高いうねり(波高2m以上4m未満)
5	長く	
6	短く	
7	中位の	高いうねり(波高4m以上)
8	長く	
9	2方向以上からうねりがきて海上が混乱(こんらん)している場合	

1. 「短く」とは、波長100m未満をいう。
2. 「中位の」とは、波長100m~200m未満(周期8.1秒から11.3秒)の程度(ていど)をいう。
3. 「長く」とは、波長200m以上の程度をいう。